

## 分詞構文の表現効果・使用レジスター研究に基づく授業実践

## —分詞構文は高校でどう取り扱われるべきか—

大分県立安心院高等学校教諭 渡辺 眞一

## 1. はじめに

高校英語では 3 年間を通じて平均 4.6 時間（質問紙調査 n=15 による）をかけて分詞構文の形と意味を教えているが、その表現効果・使用レジスター（register: *Longman Grammar of Spoken and Written English* による使用場面の定義。conversation, fiction, newspaper language, academic prose を区別する）を多少なりとも理解している高校英語教師は 15 名中 5 名にとどまり、それらは十分に伝えられていないことがわかる。本研究では分詞構文のもつ表現効果とはどのようなものなのか、どんな使用レジスターを持っているのかを先行研究によって明らかにしたうえで、教科書・文法指導書の調査、質問紙等を用いて高校英語でどのように分詞構文が教えられているのかを調査する。そして、あるべき分詞構文の取り扱いを提案し、それに基づいた授業実践の結果を報告する。

## 2. 高校での分詞構文の取り扱い方の例

高校では以下のような図を示しての分詞構文の教授が一般的である。

When she arrived at the airport, she called her friend.

接 主

↓ ↓ ↓

× × Arriving at the airport, she called her friend.

意味に関しては「時（～したとき）」「原因・理由（～なので）」「付帯状況（～しながら）」などがあることを伝え、その後練習問題に取り組みせるというものである。表現効果・使用レジスターについては、触れたとしてもごく短時間で、このことは後に述べる英語 I II 教科書・総合英語参考書・文法指導書の調査結果からも推測される。

また、高校英語教師 15 名に対する質問紙による調査では「英作文するときには使用を避けたいほうがよい」と 3 名の教師が伝えていることが明らかになった。平均 4.6 時間かけて教えておきながら使わないほうがよいと指導するという点に矛盾を感じるが、この点にこそ分詞構文の難しさ、そしてそれを教えることの難しさが凝縮されているといえるだろう（表 1 参照）。

表 1: 高校英語教師に対する質問紙調査 (n=15)

平均指導時間	4.6 時間
表現効果・使用レジスターを教える	10 名
表現効果・使用レジスター	文語体, 主に小説・物語=3 名, 口語体=1 名, 鮮やかな動き, 躍動感=2 名, 意味があいまい=3 名 (重複回答あり)
備考	英作文するときには使用を避けたほうがよいと指導する=3 名

### 3. 文法語法文献における分詞構文の表現効果に関する記述

ではいったい分詞構文はどのような表現効果を持つのであろうか。いくつかの文法語法文献に当たってみたが、分詞構文の持つ表現効果に関する記述がほとんど見られないことに驚きを覚えた。記述があった『現代英語の文法と背景』(小西 1964) には (As he was ill, he was absent. と Being ill, he was absent. とを比較して) 「パラフレーズされた文は二つの文が as という接続詞によって連結された, 正確ではあるが, ごくありふれた平板な文に過ぎないのに対し, 分詞構文では, 前文が集約されて, 一文としての緊密感が強く, 叙述に生彩があふれている」(p.54, 下線は筆者による) と書かれており, 分詞構文の表現効果を理解するうえで大いに参考になった。また, *Syntax* (Curme 1978) にも (分詞を用いた文 Holding on to the rope firmly, I came safe to land. と動名詞を用いた文 By holding on to the rope firmly, I came safe to land. とを比較して) 「動名詞は正確ではあるが, 分詞はより写實的 (graphic) である。生き生きとした文体には, より具体的かつ印象的であるという点で, 今なお簡単で古いほうの表現 (=分詞構文) を使う。」(p.258, 下線, カッコ内は筆者による) という記述が見られた。

### 4. 分詞構文の表現効果・使用レジスターに関する貴重な先行研究

文献探しを続ける中で“Grammar and Discourse: The English Detached Participial Clause” (Thompson 1983) という, 分詞構文の表現効果・使用レジスターを詳細に調査した研究に出会うことができた。この研究では (1) 「分詞構文は「話し言葉」と「書き言葉」のどちらにより多く現れるのか, (2) 「分詞構文は「小説」と「科学的書物」のどちらにより多く現れるのか」という 2 つの問いへの答えを明らかにするなかで, 分詞構文の特質が明快に述べられていた。以下 Thompson (1983) による研究結果を要約する。

まず (1) の問い「話し言葉」か「書き言葉」か, に関しては, 「話し言葉」が 35 ページにもわたる大人同士のインフォーマルな会話の SCRIPT 中, わずかに 1 つの例しか見られず, 約 15,050 語に 1 回の割合であるのに対して, 「書き言葉」*Explore of the Mississippi* (Severin 1967) では, 同じく 15,050 語に換算すると, 111 回現れている。つまり, 分詞構文は「英語を知る者なら誰にとっても直感的に明らかなように, インフォーマルな話し言葉よりはフォーマルな書き言葉にはるかに多く見られるもの」(p.45) なのである。

では、(2)「小説」か「科学的書物」か、はどうであろうか。Thompsonによると「小説」*Explore of the Mississippi* (Severin 1967) では 10,000 語に 74 回、それに対し「科学的書物」*Medical Pharmacology* (Goth 1974) では 10,000 語に 5 回の出現回数であった。分詞構文は「事象の一時的または論理的な関係を述べることよりも、事象を描写することに適した表現である。(非描写的なものよりも) 描写的な記述 (たとえば小説) に現れやすい」(pp.46-47, カッコ内は筆者による) ということになる。

さらに、描写的なセクションと非描写的なセクションが交互に現れる *Coal: Report from Mine No.7* (全 277 行) においては、第 1 セクション=非描写的「採鉱と鉱夫についての基礎的情報」(121 行) では 1 回、第 2 セクション=描写的「筆者による鉱山のレポート」(65 行) では 7 回、第 3 セクション=非描写的「何が鉱夫をこの仕事に引き付けるのか」(33 行) では 1 回、第 4 セクション=描写的「筆者による鉱山のレポート」(65 行) では 8 回という出現回数であった。描写的な文脈に現れやすいことがとてもよくわかる。

また、7 つの非描写的テキスト・3 つの描写的テキスト 10,000 語あたりに現れた分詞構文の出現回数の平均においても、7 つの非描写的テキストではすべて 20 を下回っていたのに対して、3 つの描写的テキストではすべて 50 を上回っていた。

以上をまとめると、「分詞構文は文語体で、「話し言葉」よりも「書き言葉」のほうに多く用いられる。事象を生き生きと描写しようとするとき、相手の心にイメージを湧き上がらせるために用いるもので、単に事実を述べるだけの文にはあまり使われない」という結論が得られる。

## 5. 英語 I・II 教科書・総合英語参考書・文法指導書における分詞構文の表現効果・使用レジスターに関する記述

次に、高校での分詞構文指導の実態をうかがい知るために、教科書・参考書類の中でどのように表現効果・使用レジスターが記述されているのかを調査した。

### ・教科書

高校英語 I・II の教科書では、使用レジスターに関する記述があったのは分詞構文を取り扱うレッスンがあった 16 冊中わずか 2 冊にとどまり、表現効果に関する記述は全く見られなかった (表 2 参照)。

表 2: 2 冊の教科書に見られた分詞構文の使用レジスターに関する記述

英語 I 教科書 「スピーチ、論文などの改まった状況で使われることが多い」 (p.79 <i>Milestone English Course I</i> 啓林館 (2002))
英語 II 教科書 (独立分詞構文)「主に文章体で用いる」 (p.139 <i>Crown English Series II</i> 三省堂 (2004))

### ・教師用指導書

教師が教材研究の参考に使うことが多い教師用指導書ではどうであろうか。英語Ⅱの教師用指導書（『Exceed English SeriesⅡ①解説と指導編』三省堂（2005））を調べてみたところ、接続詞を用いた文からの書き換えに関する説明はあったが、表現効果・使用レジスターに関する記述は見られなかった。

### ・総合英語参考書

次に、総合英語参考書を調査した。10冊すべてに使用レジスターに関する記述が見られたが、表現効果を伝える説明はなかった（表3参照）。

表3：総合英語参考書における分詞構文の使用レジスターに関する記述の例

『ラーナーズ高校英語新訂版』数研出版 2003 「主に書き言葉で使われます」(p.150)
『ブレイクスルー総合英語』美誠社 1997 「話し言葉ではあまり用いられない」(p.145)
『SEED 総合英語』文英堂 2004 「一部を除いて文語体である」(p.169)
『新エスト総合英語』エスト出版 2004 「主に小説や新聞などの書き言葉で用いられる」(p.198)

### ・文法指導書

最後に、文法指導書を調べてみた。これは高校の文法の授業で「教科書」として使われることが多いものである。調査した10冊中使用レジスターに関する記述が見られたのはわずかに2冊で、表現効果を伝える説明は全く見つからなかった（表4参照）。

表4：文法指導書における分詞構文の使用レジスターに関する記述の例

<i>Prism English Grammar in 26 lessons</i> 美誠社（2005） 「主に書き言葉で使われ」(p. 30)
<i>Seed English Grammar 47 Units</i> 文英堂（2006） 「分詞構文の多くは文語体」(p. 44)

以上のように、教科書・教師用指導書・総合英語参考書・文法指導書での記述は、あったとしても使用レジスターに関するものにとどまっており、表現効果を伝える記述は全く見られなかった。英語学の研究で得られた知見が十分に反映されていない実態が明らかになったといえる。文法教授はあくまでも英語習得の手段に過ぎず、実践的使用こそが最終目標である。それにもかかわらず、通常教師の手元にある書物の中には十分な使用レジスター・表現効果に関する記述が見られない。肝心の「どういう場面で、どのように使えばよいのか」に関する説明がひとえに指導する教師の個人的知識に依存しているというのは不安定な状況であるといわざるを得ない。

## 6. 授業実践

では、高校英語教育では分詞構文をどう取り扱うべきなのだろうか。確かに形式・意味の説明、書き換え練習によって定着を促す必要はあるだろう。しかしそのうえで、使用レジスター・表現効果を感じ取らせる指導は必須である。接続詞を用いた文を、単に分詞構文の導入としてではなく両者の表現効果の違いを推測させることに用いたり、分詞構文の典型的な使用例を文脈とともにいくつか示したうえで、どのような場面に現れるのかを生徒に考えさせる活動を行う。その後「事象を生き生きと描写し、相手の心にイメージを湧きあがらせる」ために分詞構文を用いた自由英作文をさせることを提案したい。

以上を踏まえ、分詞構文の授業を実践した。対象生徒は高校 2 年生、進学クラスの中でも英語習熟度が高い 27 名である。授業前の挙手による調査では 27 名中 19 名が分詞構文は話し言葉で主に使われると答えており、使用レジスターが十分には理解されていないと感じた。授業 2 時間のうち 1 時間目は分詞構文の文法指導に充てた。2 時間目は使用レジスター・表現効果に関する教授を行ったうえで、分詞構文を含めるように指示して自由英作文をさせ、最後にこの授業に関する質問紙調査を行った。質問紙は「1. 授業が興味深かった」、「2. 表現効果がわかった」、「3. 使用レジスターがわかった」、「4. 今後分詞構文を使いたい」について 5 ポイントスケール (5. とてもそう思う ~ 1. 全くそうは思わない) で回答し、さらに自由記述を加えたものである (資料 1 参照)。

2 時間目の授業に用いたプリントの文例を引用したのは該当生徒が実際に使っている英語 II の教科書 (*Exceed English Series II New Edition*) で、英語 II 担当ではない私が授業で用いたことはなかった。2 レッスンにわたって分詞構文が指導項目に挙げられており、*Finding suitable fish for dinner, bonitos surround the fish and eat them.* (p. 26), *Seeing Onda having trouble with the project, Irisawa, a first-year student, joined him.* (p. 37) などの描写的な英文が見られ、十分生徒に分詞構文の持つ表現効果を感じ取らせることができるものであった。さらに *Bullock* (n. d.) に引用されていたアメリカのスポーツ新聞中の分詞構文 *Trying to get out of the way, Murray spun his body backward and then, losing his balance, fell down.* などを加え、いっそうの定着を図った (資料 2 参照)。

## 7. 結果と考察

まず、生徒による自由英作文を検証する。ALT を交えての検討の結果、文章中で分詞構文をある程度使えていると判断できるものは 27 編中 4 編にとどまり、その他は単文での使用や不適切な使用であった (表 5 参照)。やはり分詞構文は高校生にとって難度が高く、効果的に文章中で用いることができるようになるにはさらに入念な指導が必要であることがわかった。

表 5: 生徒による英作文の例

文章中で使っていると判断された例

- ・ She noticed that the stranger came here. Not knowing who he is, she cried and avoided reaching.
- ・ Fuchan always seem to be fed up with Maruko, getting away from Maruko. Watching it, my parents often say, “They are exactly you! I feel as if I’m watching your childhood!!” (Fuchan, Maruko は飼猫)

使っていると判断されたが単文であった例

- ・ Hearing an alarm bell ringing, she got up quickly and escaped from the burning house.
- ・ Feeling tired, I went to bed early last night.

次に質問紙調査の結果である。項目 1 から 3 の平均値が高いこと、肯定的意見が自由記述での回答の大多数を占めたことから、この授業が生徒達にとって興味深く有益なものであったと判断できる。ただし、項目 4 については平均値が他の項目より明らかに低く、十分使いこなすだけの理解は得られなかったと感じる生徒が多かったことが伺える (表 6 参照)。このことは生徒による自由英作文の結果とも符合する。

表 6: 分詞構文の授業に関する質問紙調査 (n=27)

	平均値	標準偏差
1. 授業が興味深かった	4.37	0.731
2. 表現効果がわかった	4.63	0.675
3. 使用レジスターがわかった	4.778	0.416
4. 今後分詞構文を使いたい	3.852	1.145

自由記述の例

- ・ 分詞構文はきっちりした感じじゃないので話し言葉かな? と思っていたのに、書き言葉で驚いた。
- ・ どんな状況のときに使われるかわかってよかった。
- ・ 具体的な分詞構文の効果がわかってよかった。
- ・ 具体的な例文を用いており、使用方法や場面が想像しやすかった。
- ・ 使い道がわかってスッキリした。
- ・ なんか「勉強」とかいうのから離れて単純に英語っておもしろいと思いました。

以上の結果から、単なる分詞構文の文法指導にとどまらず使用レジスターや表現効果を解説する授業は、興味深く有益であると生徒には捉えられていることがわかる。このことは、自由英作文・質問紙調査の結果のみならず、授業中に生徒達が目を輝かせている様子からも十分に伺えた。しかし、分詞構文を効果的に使いこなすことは彼らにとって決して簡単なことではなく、表現活動で使用するにはさらに入念な指導が必要であるといえる。これは今後の研究課題である。

最後に、本研究の経験を通して、文法指導は使用レジスター・表現効果を伝えてこそ本当の意味を持つことを強く感じた。すぐに効果的に使用することは難しいとしても、将来の実践的使用への架け橋となるべき知識を教授しておくことは重要なことである。これまでこのような視点を欠きがちだった私自身の授業を反省すると同時に、今後の文法の授業

の改善へとつなげていきたい。

#### ■引用文献

Biber, D. [et al.] (1999) “Longman Grammar of Spoken and Written English” Harlow: Longman.

Bullock, K.E. (n.d.) “Let the game begin: Frequency of the Detached Participial Clause and Its Transitivity in Sports Reporting”

<http://www.bsu.edu/classes/bullock2/academics/LETGAMES.htm> (retrieved on August 8, 2007)

Curme, G.O. (1978) “Syntax” Tokyo: Maruzen.

Thompson, S. (1983) “Grammar and Discourse: The English Detached Participial Clause” in F. Klein-Andreu (ed.), *Discourse perspectives on syntax*. New York: Academic Press Publishers.

小西友七 (1964) 『現代英語の文法と背景』 東京：研究社

#### 高校教科書・参考書類

##### 英語教科書

島田 守[ほか] (2002) *Milestone English Course I* 大阪：啓林館

霜崎 實[ほか] (2004) *Crown English Series II* 東京：三省堂

森住 衛[ほか] (2007) *Exceed English Series II New Edition* 東京：三省堂

##### 教師用指導書

Exceed 編集委員会 (2005) *Exceed English Series II*①解説と指導編 東京：三省堂

##### 総合英語参考書

釜池 進[ほか] (2004) 『新エスト総合英語』 京都：エスト出版

田中 実[ほか] (2003) 『ラーナーズ高校英語新訂版』 京都：数研出版

吉波和彦[ほか] (1997) 『ブレイクスルー総合英語』 京都：美誠社

和田 稔[編著] (2004) 『SEED 総合英語』 京都：文英堂

##### 文法指導書

佐伯里子 (2005) *Prism English Grammar in 26 lessons* 京都：美誠社

和田 稔[ほか] (2006) *Seed English Grammar 47 Units* 京都：文英堂

※ 資料 1 は別添, 資料 2 は著作権の都合により掲載しておりません。

資料 1

「分詞構文の使い方」授業についての調査

このアンケートでは、あなたが「分詞構文の使い方」授業で感じたことを素直に教えてください。アンケートの結果は統計的に扱われ、あなたの名前等が明らかにされることはありませんし、成績には一切関係ありません。

安心院高校 渡辺 眞一

以下の記述について、もっともあてはまると思う番号に○をつけてください。

		とても そう 思う	少し そう 思う	どちら でも ない	あまり そう は 思 わ な い	ま っ た く そ う は 思 わ な い
1	「分詞構文の使い方」授業は興味深かった。	5	4	3	2	1
2	「分詞構文の使い方」授業で分詞構文が <u>どのような表現</u> 効果を持つのがわかった。	5	4	3	2	1
3	「分詞構文の使い方」授業で分詞構文が <u>どんな場面</u> で使用されるのがわかった。	5	4	3	2	1
4	今後、英語の表現活動で分詞構文を使っていきたい。	5	4	3	2	1
5	この授業の感想または「この点がよかった」「ここを変えたほうがよい」などの <u>意見</u> や <u>要望</u> を具体的に書いてください。					